



社会貢献活動

地域への
貢献

【教育復興支援学生ボランティア活動】

東日本大震災の被災地の教育復興支援を行うため、昨年度に引き続き 2012 年度は学生ボランティアの派遣を 4 回行い、宮城県内の小、中学校の児童生徒に対する自学自習支援、部活動支援、教育環境整備などを行いました。

ボランティアに参加した学生らは、一様にボランティア参加で教員として将来に向けての決意と自身を深めたようです。

本学では引き続き東日本大震災の教育復興支援学生ボランティアの派遣を続けていく予定です。



【地球への貢献活動】

刈谷駅前を彩る「アクアモールイルミネーション」を今年も本学美術科 1 年の有志の学生たちが制作。11 月 24 日午後 5 時から、同駅前商店街アクアモールで点灯式が行われました。

本学の学生たちが同商店街と協力してイルミネーションの作成を手がけたのは今年が 6 年目で、36 人が参加。今年のテーマは「サーカス」。学生たちは夏休み前から計画し、テーマや構造を考えて 10 月から制作を開始。美術教育の宇納一公教授のアドバイスを受けたら、象の曲芸、ライオンの火の輪くぐりなど約 20 種類のイルミネーションを完成させました。今回は通りの所々に彫刻作品を配置して、彫刻とイルミネーションのコラボが見どころでした。



トップメッセージ



学長 松田 正久

国立大学法人愛知教育大学環境報告書も、その発行が義務化されて 8 回目となります。関係職員の総意でこの報告書は発行されていますし、保健環境センターや財務部施設課を中心とした省エネの取組も着実に進んでいます。

私の学長としての最後のメッセージとなりますので、その思いを書き留めておきたいと思います。一つは、原子力発電の持つ社会システムの脆弱性と核廃棄物の問題です。政府や電力会社はこれまで、「原子力発電は、安価で環境にやさしいし、安全である」と喧伝し、全土に 54 基もの原発を設置した結果が、東日本大震災による福島第一原発の過酷事故でした。この事故は、住み慣れた家や土地を放棄し、数十年にわたり立ち入ることのできない広大な地を作り出しました。これは環境にやさしいどころか、環境破壊の最たるものといえますし、核廃棄物の管理費用や廃炉に要する費用などを加えれば、最も安価どころか高価なシステムといつてよいでしょう。政府は、こうした、人類の叡智を持っても無害化できない核廃棄物を生み出す原発の再稼働を認め、さらには発展途上国への輸出を推進しようとしています。私は、一物理学者として、経済優先のこうした動きを容認できません。特に核廃棄物の問題は、数 10 万年以上にわたり環境に放射能が漏れ出されないよう管理しなければいけませんし、これは不可能と言わざるを得ません。

宇宙物理学者の池内了氏は、これからの時代は、エネルギーを石油や天然ガス、ウラン等地下資源から太陽や風力、水力など様々な地上資源を利用する方向に転換しなければならないと主張されていますが、私もまったく同感です。地上資源は、風や天候任せで安定供給源にはなりにくいし高価で採算が取れない、何よりも需要に応えるだけのエネルギー源とはならないと主張する電力会社をはじめ政治家、技術者、研究者がいます。こうした人々の主張をうのみにすることなく、果たして本当だろうか、なぜ、どうしてと問いかける感性が必要で、自ら考え抜く力を持つ人間を育てるのが、本学が目指す教養教育です。

国立大学法人愛知教育大学は、教員養成を主軸に教養教育を重視する環境にやさしい大学を目指します。

※環境報告書 2013.9.30 発行



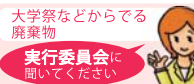
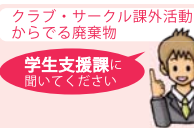
国立大学法人 愛知教育大学 Aichi University of Education 環境報告書 2013 ダイジェスト

国立大学法人 愛知教育大学 〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1 <http://www.aichi-edu.ac.jp>
保健環境センター・財務部施設課 TEL 0566-26-2194 (保健環境センター) 0566-26-2152 (施設課)
E-mail: kankyo-h@m.auecc.aichi-edu.ac.jp



この印刷物は、古紙/パルプを含む再生紙を使用しています

●通常の生活ごみ●



分別カードを
持ち歩こう！

キリトリ

国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION



環境重視型エコキャンパスの創造に向けて

1. 全学を挙げての環境重視型大学を実現するための体制整備
2. 教育大学としての特長を生かした環境に関する教育研究の推進
3. 豊かな自然環境を保全活用した環境負荷の少ないキャンパスづくり



a. 環境に関わる教育・研究

環境分野のメニューも充実！

【完熟トマトプロジェクトと学校花壇】

市橋 正一 (名誉教授)

「エコキャンパスプロジェクト」の一端で、トマトの袋栽培を教材に取り入れています。買った袋入りの培養土をそのまま使って、その袋の中にトマトを植える栽培方法です。これを教材に取り入れているのは、教員になろうとする皆さんに、簡単な方法でもまともな栽培が可能であることを知り、美味しいトマトを実際に収穫し、その喜びを知ってもらいたいと考えているからです。



【エコキャンパス・竹プロジェクト】

創造科学系美術教育講座 宇納 一公 (特別教授)

環境に配慮した ECO キャンパス事業として竹プロジェクトは、快適性、経済性、教育効果を考えています。自然から学ぶ機会として、大学内に広がる荒廃した竹林と雑木林の再生を目指し、造形活動を通して自然素材の有効利用の方法と循環型再生可能システムの構築を目指しています。おもに彫刻研究室のスタッフが中心となって様々な試みを行っています。



【共通科目 環境と人間】

人文社会科学系社会科教育講座 近藤 裕幸 (准教授)

「環境と人間」の授業は、数人の教員で担当します。環境の事象を科学的にとらえるだけでなく、「環境の学習を通して、自分の目でしっかりと確かめ、皆で協力して考え、発信する力を身につけること」を目標に掲げ、自分だけで学びを完結するのではなく、それをいかにして伝えるかを大切に運営しました。



b. 環境コミュニケーション

環境活動に参加し快適なキャンパスライフへ！

【環境ミーティング】

環境問題及び環境への取組について、学生と教職員等とが広く意見交換を行う場が、環境ミーティングです。毎年開催し、大学の環境目標・計画や環境報告書及び学生主体の環境活動について意見交換を行います。2012年度は、日頃から自主的な環境活動に取り組んでくれている学生から学内クリーン活動の報告や課題が示された。また、「省エネへの取組」、「構内全面禁煙」等についての現状と今後の課題等についても話し合いました。



c. 環境への配慮

環境重視のエコキャンパスへ！

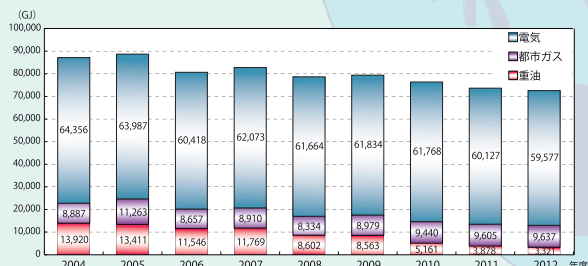
【二酸化炭素 (CO₂) 排出量】

2005年度から比較して2012年度では、-26.2%をまた対前年度比では、5.6%の増大となりました。要因は、原発停止により電気のCO₂換算係数が前年度より増大となったことで、前年度の換算係数で計算した場合、全体のCO₂排出量は、対前年度比-1.8%となります。

環境報告書	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
温室効果ガス排出量 (kg)	5,000,119	4,555,066	4,673,678	4,403,860	3,850,044	3,654,541	3,493,294	3,690,126
対前年度比	—	-8.9%	2.6%	-5.8%	-12.6%	-5.1%	-4.4%	5.6%
2005年度との比較	—	-8.9%	-6.5%	-11.9%	-23.0%	-26.9%	-30.1%	-26.2%

【総エネルギー投入量 (GJ)】

本学の過去9カ年の総エネルギー投入量 (GJ) を検証すると、2005年度に最も多くのエネルギーを消費し、その後は増えたり減ったりを繰り返していました。2010年度からは年々減少し、2012年度は、全構成員が今まで以上の省エネ意識を持ち活動を行った結果、過去最も少ない総エネルギー投入量に抑えることができたことは、大きな成果だと思えます。



【国内クレジット制度への参加】

本学では、太陽光発電設備の導入 (方法論 008)、変圧器の更新 (方法論 101) の申請を行い、2011年3月認証委員会にて計画承認されました。認証期間は3年間あり、昨年度に引き続き2012年度は2回目の実績報告書の審査を受け承認され2013年4月に売却が成立しました。

※ 国内排出削減量認証制度

年度	認証を受けたクレジット量	クレジット対象期間
2011年度	105 t-CO ₂	2010.04.01 ~ 2011.03.31
2012年度	89 t-CO ₂	2011.04.01 ~ 2012.03.31

【省資源・省エネルギー対策】

地下水浄化設備

2011年8月より地下水浄化設備が稼働し、給水の9割以上を地下水でまかっています。地下水浄化設備は、いくつかの処理行程を経て、飲料水として既存の受水槽へ投入しています。地下水の利用は、大学構内の資源を有効利用するだけでなく、大幅な経費削減、余剰水による花壇への散水・観賞池の浄化が可能となりました。また、併設して自家発電設備を設置したことにより、災害時の飲料水確保が可能となりました。



なお、2012年度の経費削減額は、市水換算で8,444千円の削減効果がありました。

【花プロジェクト】

2012年度は前年度から引き続き「花の植え替え」と「花壇整備」を行いました。学生や職員をはじめ、大学をより良くしたいと考える人が集まり交流を深めました。新たに第二福祉施設、障害児教育棟、美術第一実習棟前築山等、花壇整備を行いました。一昨年度植栽した芝桜が一層大きくなり、第一福祉施設から大学会館前の車道側面をピンク色に染め、見る人を驚かせました。



分別カードを持ち歩こう！

●教育研究活動から出る廃棄物●

種類ごとに分別して専用集積所に運ぶ

運ぶ前に教職員に聞いてください

●古紙 (新聞・OAペーパー等)

●実験系廃棄物、薬品類、薬品汚染物、実験廃液、原材料系廃棄物、粗大ごみ (ガラス・プラスチック器具・試験容器・金属くず等)

カトリ